

6. 人権尊重・男女の地位の平等について

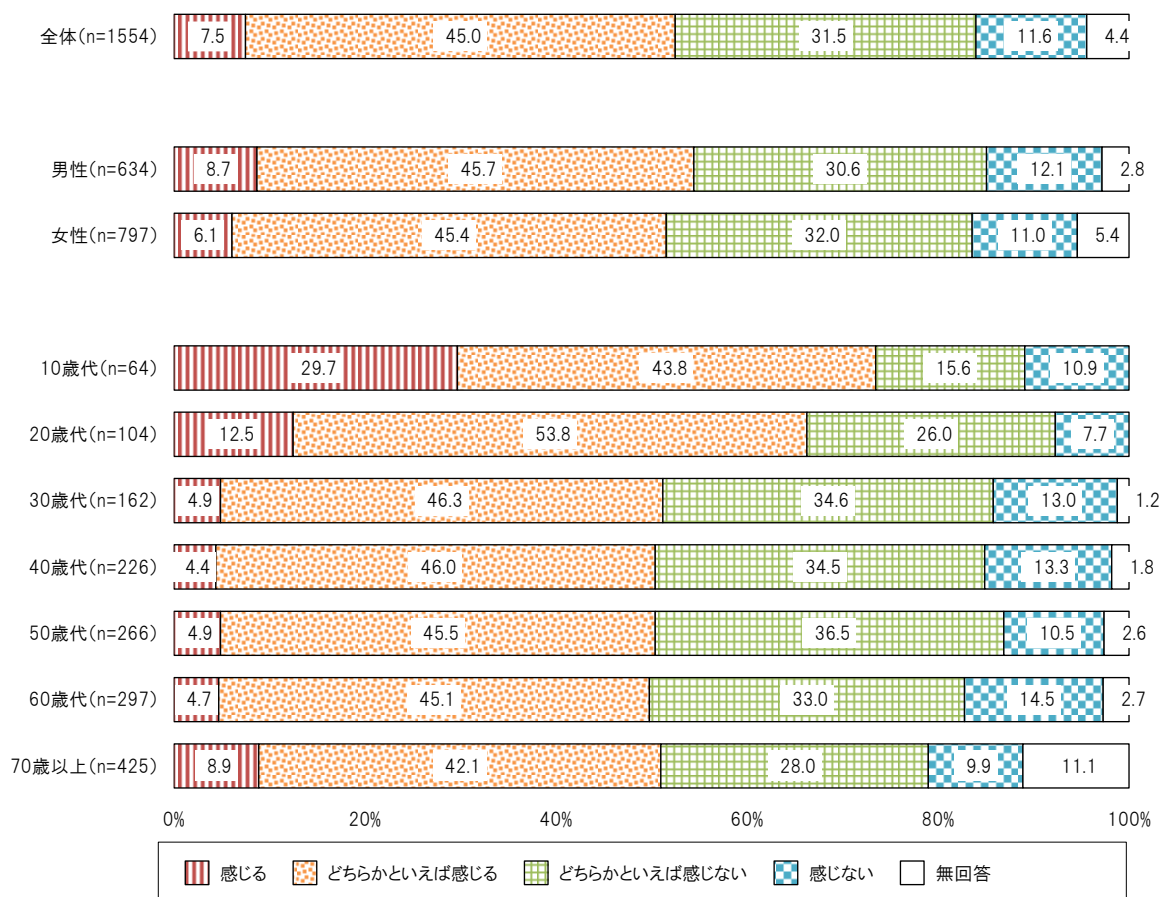
問 23 松阪市は、人権が尊重されている社会になっていると感じますか。(〇は1つだけ)

全体では「どちらかといえば感じる」が45.0%で最も高く、ついで「どちらかといえば感じない」が31.5%、「感じない」が11.6%となっている。

性別にみると、「感じる」の割合は男性の方が女性より2.6ポイント高いものの、ほぼ同割合となっている。

年代別にみると、「感じる」と「どちらかといえば感じる」の合計の割合について、10歳代で73.5%と最も高くなっており、ついで20歳代で66.3%となっている。他の年代では50%前後となっている。

問23 松阪市は人権が尊重されている社会になっているか



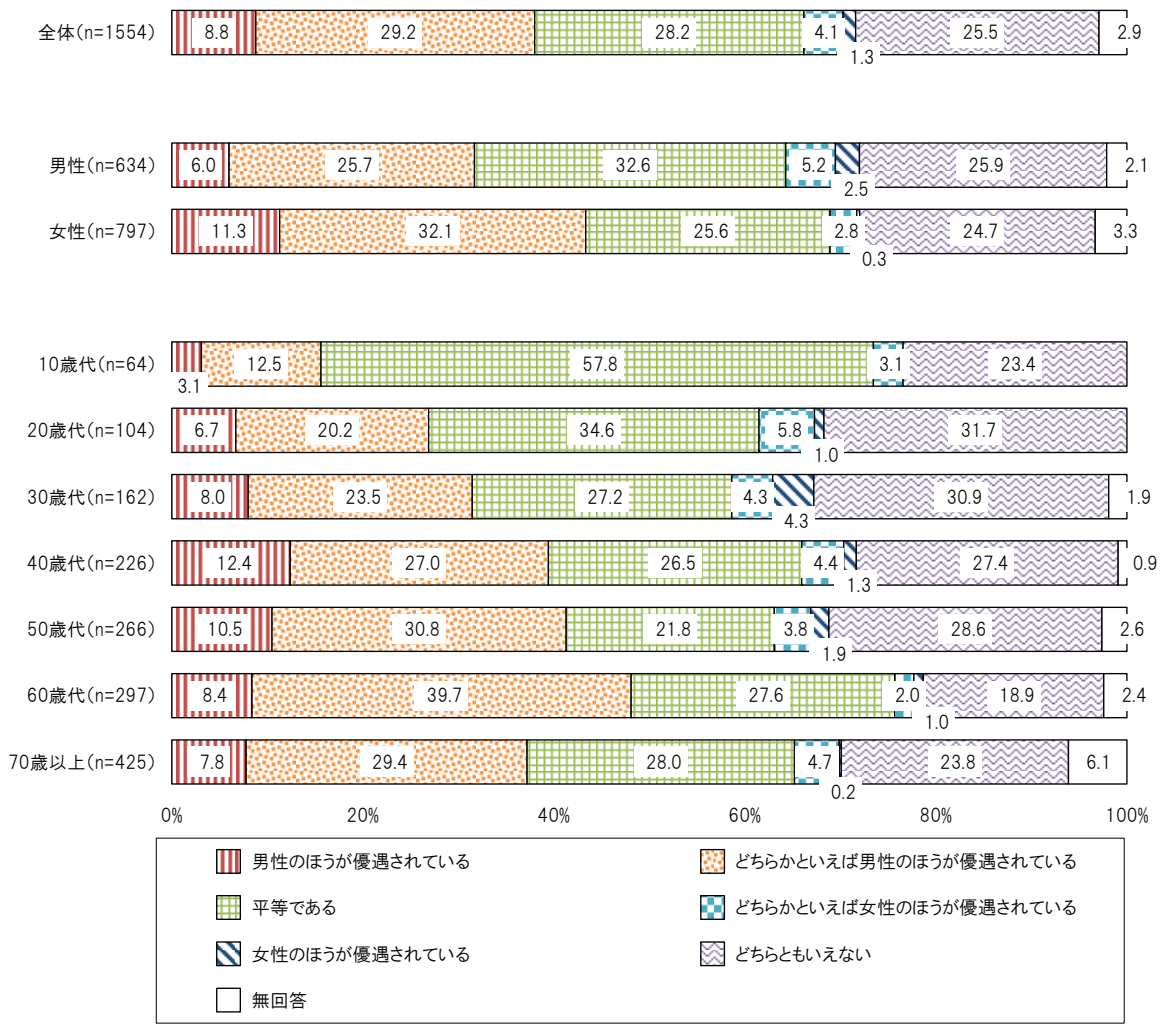
問 24 家庭生活において、男女の地位が平等になっていると思いますか。(〇は1つだけ)

全体では「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が29.2%で最も高く、ついで「平等である」が28.2%、「どちらともいえない」が25.5%となっている。

性別にみると、「平等である」の割合は男性の方が女性より7.0ポイント高くなっている。一方で、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」、「男性のほうが優遇されている」の合計の割合は女性の方が男性より5ポイント以上高くなっている。

年代別にみると、「男性のほうが優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計の割合について、60歳代で48.1%と最も高くなっており、ついで50歳代で41.3%となっている。一方で、10歳代では15.6%、20歳代では26.9%と低くなっている。また、各年代で最も高い割合となっている項目をみると、10歳代、20歳代では「平等である」、30歳代、40歳代では「どちらともいえない」、50歳代、60歳代、70歳以上では「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」となっている。

問24 家庭生活において、男女の地位が平等になっているか



前回と比較すると、「どちらともいえない」の割合は、前回は8.4%であったのが今回は25.5%と17.1ポイント高くなっている。また、「男性のほうが優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計の割合について、前回は50.5%であったのが今回は38.0%と12.5ポイント低くなっている。

問24 家庭生活において、男女の地位が平等になっているか

